「巨大科学はどこまで可能か」

横山 広美
（東京大学大学院 理学研究科 准教授）

宇宙はどうやってできたんだろう、生命はどのように生きているのだろう。このような人類共通の疑問に挑戦する基礎科学。その多くが、よりよいデータを求めて大型化を続けています。特に、基礎科学かつボトムアップの大型科学は、応用科学かつトップダウンの科学と比べ、社会からの後押しが必要となるため、コミュニケーション活動も活発です。

日本の科学全体がよりよく伸びるため、増える大型科学をどのように運営したらよいのか、みなさんと考えていきたいと思います。

プロフィール
◎横山広美
1975 年東京生まれ。東京大学大学院理学系研究科・准教授。専門は科学論・科学コミュニケーション。博士（理学）。東京理科大学大学院理工学研究科物理学専攻満期終了後、東京工業大学研究員、総合研究大学院大学上級研究員を経て、現職。
基礎科学と社会のよりよい関係を構築すべく、人類の世界観を変えるという大きな価値がある基礎科学をどのように社会と共有していくのか、多角的に研究している。日本学術会議若手アカデミー委員会委員を務め、2007 年科学ジャーナリスト賞受賞。